



比爪館跡の発掘調査 No.20

【第12・16・18次発掘調査(2)】 比爪館 第11～18次発掘調査報告書—赤石小学校施設工事関連—  
 <紫波町教育委員会(平成14年3月31日発行)>から

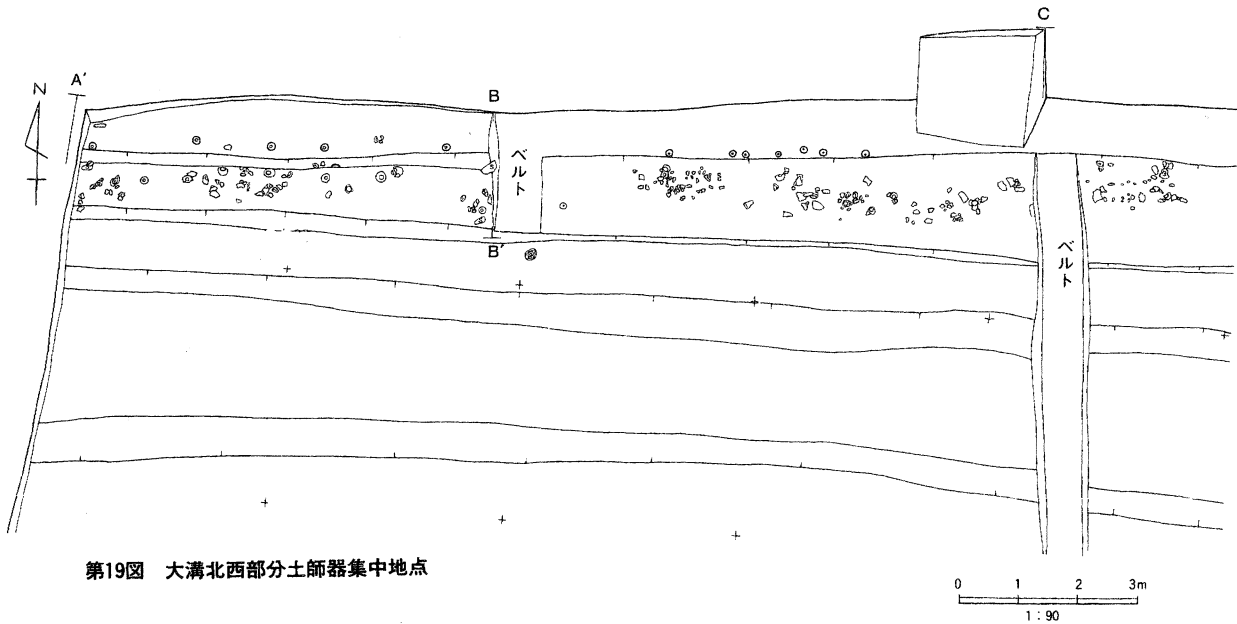
検出遺構 2 大溝 (21頁)

調査区北側を大きく東西に走っている。10次調査で検出した大溝の西側に連続する部分であり、その形態が大きく異なることはなく、以下の記述は比爪館第9・10次調査報告書(紫波町教育委員会1992)と重複する点が多い。なお、第20次調査で10次調査の東22m部分の大溝が検出されている。

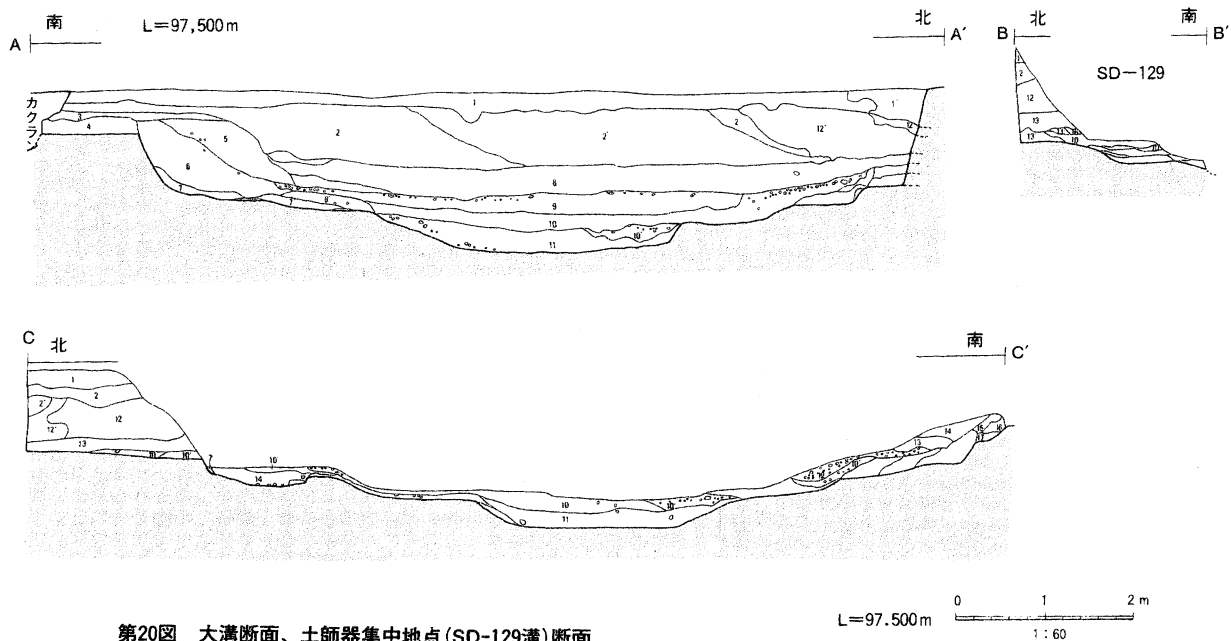
□ 大溝の形態と規模

調査区内では、大溝は直線的に東西に延びており、西方向で南に2度振れる方向をとっている。東に連続する部分の第10次調査では同じく5度振れており、幾分屈曲している。より東では、地形に沿って10次調査区東端で南に大きく屈曲していたことがわかっている。

大溝の深さは、検出面から1.8m前後であり、底幅が2.2～2.5mで、底面から20～40cm高の両岸に幅30～50cmの段を持つ逆さ凸形の断面形である。北岸は盛土と考えられるので上部断面形が南岸と対称になるとは思えないが、底中央から南岸縁までの距離は4.6～4.8mであり、単純に倍にすると10m近い幅の溝が想定できる。



第19図 大溝北西部分土師器集中地点



第20図 大溝断面、土師器集中地点(SD-129溝)断面